



企画番号：42

企画タイトル：「アイデアの提案」



No.42 アイデアの提案

<メンバー>

- ・小宅皐月
- ・小川優介
- ・佐々木福音
- ・恒川愛乃
- ・花田千紗

概要

<目的>

様々なアイデア発想法を試し、グループでアイデアを共有し社会に生かすことを目指す。

<計画>

目的を達成するための手段として、「TOKYO MIDTOWN AWARD 2022 のデザイン部門」に応募することを決めた。最初に各々がテーマを読み解く。その次にマンダラートやアイスブレイク、コラージュ等のアイデア発想法を行った。様々なアイデア発想法を試しながら最終的には、自分たちなりのアイデア発想法を確立した。文章でまとめ、その次に最終的にテーマに沿ったデザインをCGを使ってイメージ化した。

<応募したコンテスト>

TOKYO MIDTOWN AWARD 2022 のデザイン部門。

東京ミッドタウンは、「JAPAN VALUE (新しい日本の価値・感性・才能)」を創造・結集し世界に発信し続ける街"を目指す一環として、2022 年で 15 回目となる TOKYO MIDTOWN AWARD を開催。次世代を担うデザイナーやアーティストとの出会い、支援、その先のコラボレーションを目指し、デザインコンペ・アートコンペの 2 部門を設け、幅広く参加作品を募集。若い才能を応援する登竜門となるアワードを目指し、両コンペとも 39 歳以下を応募要件として設定している。

<募集テーマ全文>

TRIP

2022 年、そろそろパンデミックが終息してほしい。そして、また旅に出かけたい。

あなた自身が描くこれからの「TRIP」にまつわるデザイン、アイデア、プロジェクトを募集します。

<活動内容>

いろんな色の付箋を使って、コンセプトの連想を行った。共通している単語や文章を書いて、それをグループ化したり、そこからまた新たな考えを導き出した。そうすることで自分たちの成果物に磨きをかけた。

<得られた学び>

みんなの意見や提案を組み合わせる納得のいくものを作り上げる経験、活動の過程が初めてのこともあり、楽しさや面白さを知ることができた。進行の仕方や発想の転換がグループだからこそ、たくさん出て面白かったし、意見を受け入れる大切さを学んだ。

<成果・結果>

期間の都合上、1つの作品となった。

結果：一次審査落選

(1,218点の応募があり、そのうち10点が一次審査を通過した。)



活動報告書

<目的>

様々なアイデア発想法を試し、グループでアイデアを共有し社会に生かすことを目指す。

<計画>

目的を達成するための手段として、「TOKYO MIDTOWN AWARD 2022 のデザイン部門」に応募することを決めた。最初に各々がテーマを読み解く。その次にマンダラートやアイスブレイク、コラージュ等のアイデア発想法を行った。様々なアイデア発想法を試しながら最終的には、自分たちなりのアイデア発想法を確立した。文章でまとめ、その次に最終的にテーマに沿ったデザインをCGを使ってイメージ化した。

<応募したコンテスト>

TOKYO MIDTOWN AWARD 2022 のデザイン部門。

東京ミッドタウンは、「JAPAN VALUE (新しい日本の価値・感性・才能)」を創造・結集し世界に発信し続ける街"を目指す一環として、2022 年で 15 回目となる TOKYO MIDTOWN AWARD を開催。次世代を担うデザイナーやアーティストとの出会い、支援、その先のコラボレーションを目指し、デザインコンペ・アートコンペの 2 部門を設け、幅広く参加作品を募集。若い才能を応援する登竜門となるアワードを目指し、両コンペとも 39 歳以下を応募要件として設定している。

<募集テーマ全文>

TRIP

2022 年、そろそろパンデミックが終息してほしい。そして、また旅に出かけたい。

あなた自身が描くこれからの「TRIP」にまつわるデザイン、アイデア、プロジェクトを募集します。

<活動内容>

まず、テーマについての出来事を付箋にまとめ、その付箋についてそれぞれ説明した。花田さんが多くのテーマに対する出来事を付箋に書いてくれた。そのおかげで、グループ活動が活性し、次から次へと出来事やテーマについて思うことが出てきた。膨らましたアイデアにおいて、共通している内容を 1 つのグループとし、そのグループから最適な単語を探した。恒川さんがこのとき活躍していた。グループ化しようとなったとき、初めてのこともありみんなが合ってるか不安になっていたように思う。それにより一度手が止まってしまった。しかし、その中でも恒川さんが発端として、グループ化を行った。そのおかげで、なぜこの単語とこの単語が同じ

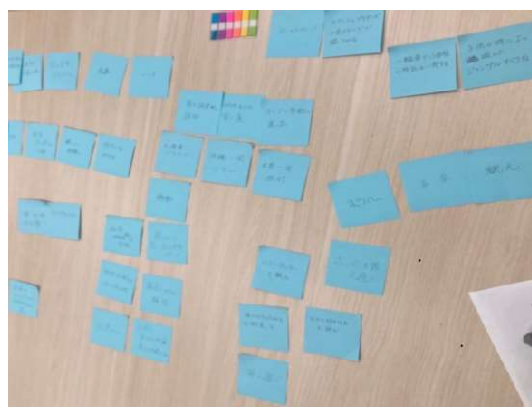


図 1 アイデア発散の様子①

グループなのかという説明がメンバー内で行うことができた。このとき、活動に対する気持ちが発生したように思う。

次に進め方について困ったため、アドバイザーである宮武先生に相談した。宮武先生から、「まず、テーマを聞いてどういう感情になったのか、どうしてそう思ったのかエピソードを用いながら話し合いを行いましょ。その後、グループ内で1番納得する単語を選び、もう一度アイデアの発散を行いましょ」というようなアドバイスをもらい、また話し合いを行った。アドバイスをもらった際に、小宅さんと他メンバーとで、アドバイスを受けての進行の考え方が違った。その際に主に小川君と佐々木君とで進行の解釈について話し合い、グループの方向性を話し合った。まず、テーマである「TRIP」について、それを行った際にイメージできる気持ちは何か話し合った。先ほどの出来事の話混ぜながら話し合った。青の付箋に出来事を書き、青の出来事で似ているものをグループ化した。次にその出来事から連想できる気持ちを黄色の付箋にまとめ、話し合い、テーマに対する認識を膨らました。また新たにグループ化を行った。次に赤の付箋にグループ化した黄色の付箋をまとめるとどのような単語が連想されるのか話し合った。また、その中から各々が1番最適だと考える単語を選び、まとめ、コンセプトの決定を行った。

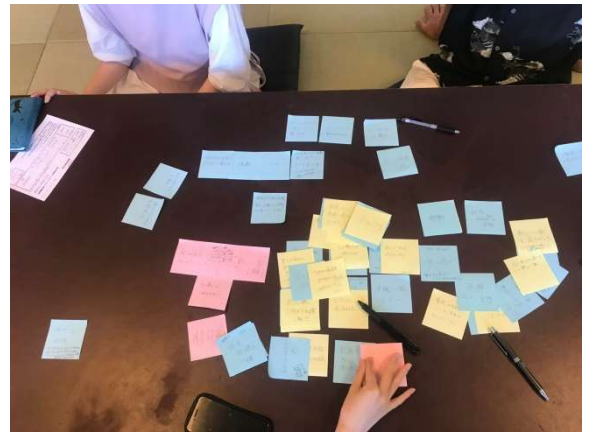


図 2 アイデア発散の様子②

次にまとめた単語を具体化した。まとめた単語をホワイトボードに貼り、色や形についてどういう物をイメージしているのか、付箋に書き留めた。それが終わると、大まかなイメージ図が各々で浮かび上がったので、そのイメージ図をホワイトボードに書きながら、相談し合った。イメージ図をまとめ、その後、私たちの想像する1つの作品の設計を考えた。作品はグループが同じイメージを持っていても、設計を考えると、個人個人で違って面白かった。

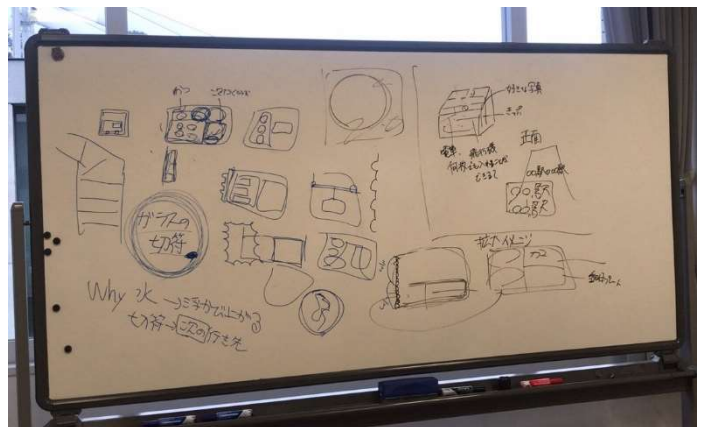


図 3 設計図の作成

全員でプロトタイプの詳細な部分まで話し合い、次にプロトタイプのCG画像の依頼のための設計図の作成を行った。恒川さんと小川君がこれを行ってくれた。お互いが不慣れであるなか、試行錯誤して作成してくれ。また、2人が作成しているとき、小宅さんと花田さんと佐々木君が紹介文をまとめてくれていた。今まで付箋に書き留めた物を活用しながら、なぜこの形なのか、なぜこの素材を使っているのか、なぜこの色にしたのか等をまとめた文章を作成した。文章を作成し終わると、次に背景に取りかかった。

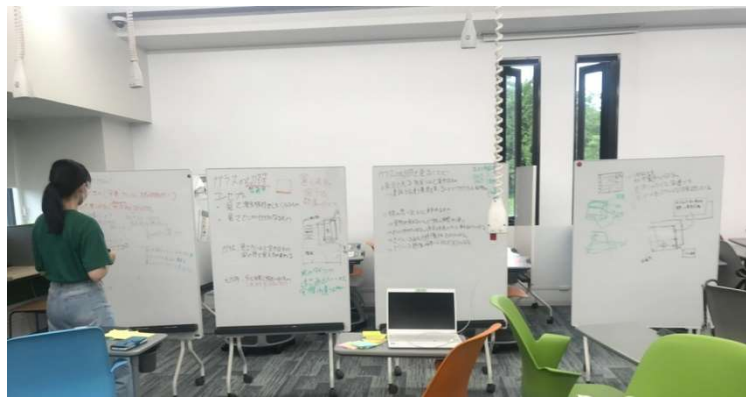


図 4 紹介文の作成のようす

ここではイメージしていたフリー素材の背景を使った。次に提出書類の作成に移った。このとき、全員が編集できるようにグーグルスライドを用いた。この方法は小川君が提案してくれた。そのおかげで、オンラインで各々が考えていることをメモにして残したりと、対面と同様の話し合いを行うことができた。差し込む文章の色、フォントは花田さんが主に選んでくれた。最適な色を選んでくれたため、花田さんがこれらを提案した際にみんながその色、フォントについて同意した。これにて、書類が作成できたため、提出した。(成果・結果にて記載)

<得られた学び>

みんなの意見や提案を組み合わせる納得のいくものを作り上げる経験、活動の過程が初めてのこともあり、楽しさや面白さを知ることができた。進行の仕方や発想の転換がグループだからこそ、たくさん出て面白かったし、意見を受け入れる大切さを学んだ。

<成果・結果>

期間の都合上、1つの作品となった。

結果：一次審査落選

(1,218点の応募があり、そのうち10点が一次審査を通過した。)



図 5 成果物